

【鹿ノ台小】令和8年度全国学力・学習状況調査結果の分析【詳細】

【国 語】

国語は全国平均を上回りましたが、「思考・判断・表現」、とりわけ「書くこと」については、他の観点（「知識・理解」）や学習内容（「読むこと」など）と比べて正答率が極端に低くなっています。

また、出題形式別に見て、「選択式」「短答式」に比べて、「記述式」の平均正答率が20～27ポイント低くなっています。この傾向は、全国平均と同じ傾向です。

※問題を確認したい場合はこちら [「令和8年度小学校国語」](#)と[正答例](#)及び[解説資料](#)

〔自分の考えを伝える際に、考えと根拠を区別して表現することに課題〕

「思考・判断・表現」の中で、本校が特に低くなったものは、[問題2四（以下A）](#)で、35%にとどまりました。

Aは、全国的に見ても子どもたちが苦手とする「記述式」の問題です。

一方、同じ「思考・判断・表現」の記述式問題の[問題3三\(2\)（以下B）](#)の正答率は76%ほどで、Aの正答率と比べると約2倍の開きがあります。

これほど大きな差が生じる理由はどこにあるのでしょうか。

●ちがうところ

A：【集めた情報】からタイトル・文の一部を抜き出して考えたことを書く
〈字数制限〉がある

B：【文章】を読んで文章中の言葉や文を取り上げ、自分の経験と結び付けて考えたことを書く
〈字数制限〉がない

解答類型を見ると、

A：〈考えたこと〉については、ほとんどの人が書けていましたが、

〈考えたこと〉は書いているけれども、〈抜き出して〉書いていないために誤答になった人は3分の1弱いて、正答率に近い割合でした。

B：〈自分の経験〉については、ほとんどの人が書くことができていました。

こうした誤答傾向は、多少の誤差はありますが本校だけの特徴ではありません。全国・県でも似たような傾向が見られます。このことから、自分の経験と結び付けて書くこと、資料や文章を読み取って自分なりに〈考えたこと〉を書くことはできるが、集めた情報から必要な部分を適切に引用しながら書くことに課題があると考えられます。自分の考えをうまく伝えるためには根拠となる資料やデータを示すことが大切ですが、引用部分と自分の意見とを明確に区別して書くよう意識づける指導が必要だと感じました。

なお、正答率が全国的に低かったAに関連する指導要領での指導事項は次のとおりです。

エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること

〔情報と情報との関係に着目する「例えば」を意識する〕

《情報の取り扱い》

「知識・技能」は、言葉の特徴や使い方に関する事項と情報の取扱いに関する事項の2つの学習内容を含んでいます。本校に限らず、全国的にも言えることですが、(2)情報の取り扱いに関する事項が低くなりやすいことです。中でも、[問題2二\(以下C\)](#)は半数近い児童が正解できていませんでした。

Cは、「夏を快適に過ごすためのくふうについて調べて考えたこと」を書いて報告し合う学習場面において「衣服のくふう」について調べた花山さんが書いた【文章の一部】を読んで答える問題です。

「強い日差しが照りつけるえん天下では、はだを出しすぎないように着る物をくふうすることができそうだ」の続きに、具体例を挙げて説明を補足するものとして、最も適切なものを4つから選びます。【花山さん】は「どうして暑い日に長そでの服を着るのか」という小見出しを付けて、調べて考えたことを書いているので、1が正答です。しかし、次の小見出し「すずしく過ごせる長そでの服の着方」で、取り上げている「えり元をゆるめて」着ることについて書かれた選択肢3を選んだ児童が本校も3割弱いました。

	問題2二の選択肢	全国
正	1. 例えば、長そでのシャツをはおるなどのくふうが考えられる。	48.9%
誤	3. 例えば、えり元を開けて着るなどのくふうが考えられる。	33.0%

文部科学省国立教育政策研究所の『[令和8年度全国学力・学習状況調査報告書【小学校／国語】P49](#)』では、3を選択した児童について次のように分析しています。

- ㊦ 「例えば、」という表現に続く内容が考えを支える事例であると捉えることができなかった
- ㊩ 文脈とは関係なく【花山さんの文章の一部】の〈図〉や自分の経験を基に選択した
- ㊫ さらに、衣服の工夫を具体的に書くことを理解することはできたが、着る物の工夫ではなく着方の工夫を具体的に書くことと捉えた

㊦のように「例えば、」から始まる文が、その前の文の具体例、事例であると捉えることができない実態がもしあるのなら、授業の中で、児童が発する「例えば…」「なぜなら…」などの接続語を取り上げ、「事例」や「理由」という語句とともに価値づけたり、情報と情報との関係について意識を向けさせたりすることが大切になってきます。

同じ誤答でもどのような思考の流れでそのような誤答となったのかを振り返ったり、考察したりすることは、教師にとっても児童にとっても大切な営みのひとつです。

㊫の場合、選択肢の「1…シャツをはおる」「3…開けて着る」という表現から、「服の着方」との認識に引っ張られ、次の小見出しの「服の着方」で書かれている内容を選択してしまったとも考えられます。そのとき、どのような考え方をしたのか、誤答してしまった子どもたちから教えてもらうのも、今後の指導のヒントになります。

【算 数】

算数は全体として全国平均や奈良県の平均と比べて高く、領域別、観点別、出題形式別で見てもすべて全国平均を上回りました。全国的に、「思考・判断・表現」の観点や記述式問題は、他の観点や形式に比べて正答率が下がる傾向にあります。本校はこれらの項目についても全国平均を上回りました。一方で、算数全体の平均正答率は、国語と比べると全国的にも低い傾向が見られました。

領域別では、「変化と関係」「データの活用」が5割強の正答率で、本校の平均点を引き下げています。これらの領域は、比例、倍、割合、単位量あたりの大きさ、グラフなどに関わる内容であり、全国的にも苦手とする児童が多い領域です。

※問題を確認したい場合はこちら [「令和8年度小学校算数」](#)・[正答例](#)・[解説資料](#)

〔根拠を示して説明することが不十分〕

全国的に、[図形問題](#)の平均正答率を下げた問題は3問ありました。そのうちの2問は、本校でも正答率が低くなりました。

(ア) [問題1\(3\)](#) 問題へのリンク

「1 cm^3 の立方体36個あります。36個をすべて使って、高さ4cmの直方体を1つ作りまし
た。その直方体の体積は何 cm^3 ですか」

問題をじっくり冷静に読めば36 cm^3 と答えられそうですが、下線の部分「高さ4cmの」という情報が1つはいるだけで、正答率は下がるようです。問題文に、解答に一切必要のない情報がたった1つ加わるだけで、それに引っ張られ、難しく考えてしまったのかもしれない。

9 (36 $\div$ 4) と解答して底面積を求めている人や、144 (36 $\times$ 4) と解答している人のほか、4を使って答えを導き誤答した人が半分近くいました。

三角形の面積を求める問題に、底辺と高さ以外の長さを余分に提示するだけで、正答率は下がります。しかし、底辺と高さの関係が明確に理解できている場合は、余計な情報が加わっていても間違えることはありません。

(イ) [問題1\(4\)](#) 問題へのリンク

・送る箱の形の縦・横・高さの合計で宅配便の送料が決まる場合、送りたい荷物の送料が何円になるかを求める問題です。

・送料を算出するだけでなく、その求め方を、①3辺それぞれの長さ②3辺の長さの合計がわかるようにして、数や言葉を使って記述しなくてはなりません。

解答類型を見ると、送料は正しく導き出すことができている児童の割合は8割を超えますが、そのうち半分弱が【求め方】の記述の部分で誤答となりました。

記述の条件である①「3辺の長さ」②「3辺の長さの合計」のいずれか、または、両方を書いていない場合は正答にはなりません。**「根拠を示してわかるように記述すること」に課題**が見られました。国語の分析でも触れた「自分の考えをうまく伝えるためには、根拠となる資料やデータを示すことが大切である」という点と共通する結果となりました。

〔式や答えの意味を考える〕

(ウ)問題2(3) 問題へのリンク

5年生の「単位量あたりの大きさ」の「こみぐあい」の問題です。

広さとペンギンの数の異なる2つのペンギン広場AとBのペンギンのこみぐあいを調べるために、提示された式と答えの意味を理解し、判断できているのかが問われています。

	ペンギンの数	面積
Aの広場	10羽	20㎡
Bの広場	12羽	30㎡

数と広さが異なる場合は、数か広さのいずれかをそろえて比べるという考え方から、主に次の2つの方法で解決することが5年生の学習では取り扱われています。

	式	式の意味	商の意味
①	ペンギンの数(羽) ÷ 面積(㎡)	1㎡あたりのペンギンの数	商が大きい方がこんでいる
②	面積(㎡) ÷ ペンギンの数(羽)	1羽あたりの面積	商が小さい方がこんでいる

式の意味や出てきた答えにどんな意味があるのかを説明できることが求められますが、子どもたちにとってはなかなか難しい内容であるとともに、思考力を育む大切な学習なのです。

式は、答えを求めるための過程で取り扱われがちですが、問題場面を端的に表す「算数の言葉」と捉えることもできます。単に答えを出すことだけを目的とせず、式の意味を考えること(式の読み)の指導がますます重要視されてきています。ときには、今回の問題(ウ)のように他者が立てた式を読み、説明する学習活動が必要です。学力・学習状況調査の問題は、「こうした学習活動を大切にしてほしい」とのメッセージだと考えることができます。

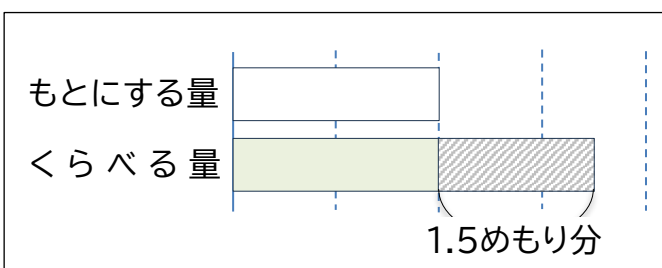
〔場面を表す文表現、式表現、図表現を大事にする〕

(エ)問題2(4) 問題へのリンク

「赤テープの長さが白テープの長さの1.5倍」を表す図を6つの選択肢の中から2つ選びます。今回、この問題の平均正答率が2番目に低くなりました。

「倍」の問題、とりわけ小数倍、分数倍の問題を苦手とする子どもは多いと言われています。全国では3分の1しか正しく選択できませんでした。

示されたもとにする量(白テープの長さ)と割合(1.5倍)から、くらべる量(赤テープの長さ)を捉えることに課題があるようです。8月3日に発表された『令和8年度全国学力・学習状況調査報告書小学校算数【速報版】P57』(文部科学省国立教育政策研究所)によると、最も多かった誤答をした児童は、左図のようにもとにする量の1.5倍にあ



たるくらべる量を、もとにする量より1.5めもり分多い量であると誤って捉えている可能性を指摘しています。全国平均では、正答よりもこの誤答の割合の方が高くなっています。本校でも3分の1の児童がこちらを選んでいました。【速報版】

のとおり、誤って捉えているのかどうかは、子どもたちに直接訊ねてみなければわかりま

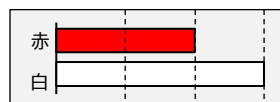
せんが、子どもたちが1.5倍を誤って捉える傾向について、指導者側は意識しておく必要を感じました。

小数倍（分数倍）だけでなく、2年生、3年生で「倍」を学習するときから、もとにする量（「もとにする大きさ」）のいくつ分（何倍）を、図やテープなどの半具体物、具体物を使って説明する操作を伴った活動を意識的に取り入れることが重要だと思われます。

答えがすぐに出る課題では、特に低学年や中学年では、説明したり図に表したりすることを面倒に感じる児童も少なくありませんが、自分の考えの正しさを、図などを使って説明したりしながら、

「文(言葉)」 「式」
「図」の3つの表現を
往還(変換)する力を育てることが大切です。

- 場面を表す文表現 「赤テープの長さは白テープの長さの1.5倍です」
- 式表現 $(\text{白テープの長さ}) \times 1.5 = (\text{赤テープの長さ})$
- 図表現



〔データの活用 日常生活の問題を解決するために、表やグラフを読み取ること〕

(オ) [問題4\(1\)](#) (カ) [問題4\(3\)](#) [問題へのリンク](#)

本校が唯一全国平均（56.2）を下回った問題(オ)と今年度本校で最も正答率（21.8%）が低かった問題(カ)です。

(オ)は、1年生と交流会を計画するにあたり、1年生の各学級の人数を示した表と1年生が選んだ遊びを学級ごとに分類した表を見て、次のことを答える問題です。

①「全員分のアンケートが整理されていない学級」が何組か

②表のどの部分を比べるとわかるのかを、「言葉と表の中の数を使って」説明する
4年生で学習する二次元表を読み取る力と説明する力が問われています。解答類型を見ると、「全員分のアンケートが整理されていない学級」について正しく解答している割合は9割を超えています。つまり、2つの表を見比べて読み取ることはできているようなのです。しかし、「表の中の数」を適切に抜き出して記述に活かすことが十分できない人が4割強に及びました。

ここでも、表を読み取って答えはわかるが、〔根拠を示して説明すること〕の難しさが示された形となりました。

(カ)は二次元の表中の数が表す意味を正しく理解できているかを問う問題でした。

交流会の前半と後半であやとりやかるとに参加する1年生の人数を整理した表から、

㊦「前半かるとに参加する人数」

㊩「前半かるとで、後半あやとりに参加する人数」

を答えます。㊦㊩の2つを正しく解答（完答問題）した割合は2割にとどまりました。

㊩は「前半かるとに参加、後半あやとりに参加の人数」といった要件が二つ重なる部分を読み取らなくてはなりません。㊦は正しく解答できている（48.7%）のに、㊩を誤答している人の割合が多く、誤答者の半分以上を占めます。二つの要件が重なる部分の読み取りに課題が見られました。㊩の誤答例として、「後半あやとりの合計」のみを示す部分を解答している割合が高く、二つの観点で分類整理された二次元表の合計欄の理解に課題があることがわかりました。